

公民館からのお知らせ

問い合わせ 公民館 ☎35-0700(〒659-0068 業平町8-24)

公民館講座のご案内

【音楽を楽しむ講座 - 六車智香さんと楽しく歌いませんか】
心に残る想い出の歌など、六車先生の指導で楽しく歌ってみませんか。
日時 9月14日～平成18年1月18日(全5回)水曜日、午前10時～11時30分 定員 80人
会場 市民センター音楽室 受講料 2,000円 講師 六車智香氏(ソプラノ歌手)
【「ブログ」で作る簡単ホームページ】
家庭のパソコンがインターネットに接続しているかたが対象です。
《1コース》 日時 9月3日・10日(土)午前9時30分～11時30分 定員 14人 受講料 1,000円 会場 市民センター217室 講師 片山綾子氏
《2コース》 日時 9月9日・16日(金)午前9時30分～11時30分 定員 14人 受講料 1,000円 会場 市民センター217室 講師 都井すま子氏

申し込み 8月20日(土)＜消印有効＞までに、往復はがきに講座名・住所・氏名・電話番号・年齢・性別を記入し公民館へ。応募者多数の場合抽選(市内在住優先)

夏休みの公民館・子ども教室 楽しい催し

【科学教室 - 葉脈標本を作ろう】
日時 8月18日(木)午前9時30分～11時30分 会場 精道中学校 内容 葉脈標本を作ります 対象 小学4年～6年生、20人 費用 500円
【切手教室 切手のお土産つき】
日時 8月19日(金)午前10時～11時30分 会場 市民センター301室 内容 切手の収集の仕方、楽しみ方についてのお話 対象 小学生(保護者同伴可)、20人
【ケナフを使った紙すき教室】
日時 8月20日(土)午前9時45分～11時30分 会場 市民センター214室 内容 紙すき・壁かざり・ケナフクッキー 対象 小学生(保護者同伴可)、20人
【子ども料理教室】
日時 8月22日(月) 午前10時～11時45分 午後1時15分～3時 会場 市民センター214室 内容 からだに良いおやつ 対象 小学生(保護者同伴可)、20人 費用 500円
【植物画教室 植物画コンクールにチャレンジ ・2回連続教室】
日時 8月22日(月)、29日(月)午前9時30分～11時30分 会場 市民センター203室 対象 小学生(保護者同伴可)、20人 費用 500円

申し込み 8月10日(水)までに、はがきかファクスで教室名・住所・氏名・学年・電話番号を記入し公民館へ。応募多数のときは抽選し、はがきで結果を連絡。

エイジレスライフセミナー＜後期＞受講生募集

【ヨーロッパ史の源流(3)】
日時 9月8日～12月8日 全4回 第2水曜日、午後2時～午後3時30分 定員 100人
会場 市民センター401室 講師 神戸大学名誉教授・鈴木利章氏 受講料 3,500円
【「数算抄」に学ぶ8・親鸞の教え-】
日時 9月30日(金)・10月21日(金)・11月24日(木)・12月16日(金) 全4回 午前10時～午前11時30分 定員 50人 会場 市民センター401室 講師 大谷大学特別任用教授・小野運明氏 受講料 3,500円 教材費 160円

申し込み 8月3日(水)の午前9時から、文化振興財団事務所まで受け付け(午後5時まで)です。先着順で、定員になり次第締め切り。< 火曜日休館 >

問い合わせ 文化振興財団 ☎31-4962

美博・あしひゅー 連携事業 **ジャンボに遊ぼう！夏休み 広いよ・でっかいよ・楽しいよ**

日時 8月13日(土)午前10時30分～正午 会場 美術博物館 内容 館の前庭やホールで「大型折り紙の虫作り」「ジャンボかるた取り大会」等 指導 日本折紙協会・福山登美代氏 参加費 200円 対象 幼稚園児から小学校低学年の子ども20人(親子での参加可) 申し込み ファクスまたは電話で下記へ
問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432/FAX38-5434

8月 テレビ 広報ガイド 9ch		
芦屋市広報番組 あしや30	アワー in. in.	放送時間(30分)
芦屋市政キララ	「神戸第1・芦屋学区統合 ～高校受験は今～」	8:00 11:30
広報トピックス	燃料電池自動車乗車会 美術博物館探検隊	16:00 19:30
イベント情報	芦屋市防災訓練	22:30
芦屋の中のタイ	チューサナ・ハンさん	ビデオ テープ 貸出可
市民の時間【夏の特集】	恋の歌でつづる～芦屋のガーデン	

8月20日(土)は「J-COMプレビューデー」のため、の放送はありません。番組に関する問い合わせ 広報課 緯38-2006 CATV全般に関する問い合わせ ケーブルネットワーク神戸芦屋(J:COM)カスタマーセンター 緯0120-13-8160

人権特集



未来へ伝える平和の想い 国際平和と人間の安全の狭間で



《プロフィール》

吉川 元(きつかわ げん)氏 昭和26年(1951年)、広島生まれ。一橋大学大学院博士課程単位取得退学。博士(法学)。神戸大学大学院法学研究科教授。国際関係論専攻。著書に、『ソ連ブロックの崩壊』、『ヨーロッパ安全保障協力会議CSCFE』、『国際関係論を超えて』などがある。

すべての人々の人権の尊重を基礎として平和な社会を実現することは、行政や私たち一人ひとりに課せられた大切な課題です。特に今年は、戦争が終わって60年の節目の年であり、「平和」に対するさまざまな取り組みの必要性が大きく叫ばれています。今回は、吉川元氏(神戸大学教授)の寄稿記事を通して、真の国際社会の平和と安全について考えてみたいと思います。

問い合わせ 生活環境部人権推進担当 緯38-2055



1 「平和」とは「国際平和」であった

二十一世紀に入った今日、平和の見方について、大きな変化が生じている。それがどのようなものであるかを考える前に、二十世紀を通して、「平和」とは「国際平和」であったこと、それには影と光の両面があることをみておきたい。

人類は、国際平和を渴望し、戦争を

2 平和共存への反対

平和を願い、戦争を防止しようとするのは、当然のことである。しかし、国際平和の希求の代償はあまりに大きかった。

一九七〇年代に、かつてのソ連や東ヨーロッパの社会主義諸国の人権擁護団体の一部市民たちが、「平和へ疑問を投げかけ、東西関係の平和と緊張緩和に異議を申し立てたことがあった。曰く、「国家と社会」の戦争状態にある人たちがとって、気意をなだめる独裁体制との平和共存、さらにはそれへの経済支援は、独裁体制の延命に手を貸すことを意味した。その独裁体制

阻止するために、知恵を絞ってきた。特に、軍事技術の進歩で、世界が核戦争の時代に入るや、人類はまさに滅亡の危機に瀕した。武器、それも大量破壊兵器が存在するから、平和が脅かされる。そう考えることで核兵器の廃絶は、二十世紀後半から、国際平和の最大の課題となった。

しかし、反応は無理解でつれなかった。戦争を望んでいるのか」と、西側のメディアも、インターネットも、彼らに厳しい非難を浴びせ、とりあわなかった。人間の安全を脅かすような国家体制と共存しようとする点では、人権に理解のあるはずの西側諸国と途上国との関係においても同様であった。

独立したアジア・アフリカの多くの国は、統治の正当性が確立されず、国民としての一体感も形成されていない

3 「平和」の陰で権力の戦争

われわれは、いつしか国家中心の国際関係の見方に慣れきってしまった。主権平等、内政不干涉で、しっかり国家が大事にされた。平和といえは、国際平和、そして国家間の平和こそ、至上の価値であると考えてしまうようになった。だからこそ、戦争の惨禍だけが語り継がれ、いつしか、無辜の民、弱者女性、子どもの犠牲を出してはならない」というのが戦争反対の大義となった。

しかし、「国際平和」の見方に慣れきったことのおかげは大きい。そうした「平和」の下で、多くの人が、政権が市民にしかける「戦争」によって犠牲になっていったからである。

独裁体制の国が、無辜の民に対して残酷で容赦ないことは、あまり語られていない。ハワイ大学のランメル教授は、政権による市民の殺害(大量殺戮、獄死、餓死)を、「デモサイド」と定義して、「二〇世紀(一九八七年まで)のデモサイドの犠牲者を調査している。その調査によれば、共産党政権下のソ連で六千五百万人、共産党政権下の中国で三千五百万人の無辜の民が、外

4 やつと人間の安全が求められる時代になった

国際平和と人間の安全の双方を求める動きが出るのは、冷戦が終わったことである。人間の平和、安全を脅かすのは、必ずしも外国の侵略戦争だけではない。むしろ、それが内戦、国内の政治体制のあり方、それに深刻化する地球環境問題、貧困が、人間の安全を脅かす。地球が二〇〇近くの国家に区分けされ、それぞれの国家が

国の侵略戦争ではなく、自国の政権の手によって犠牲になっている。ポルポト政権下のカンボジアでは、わずか四年間に人口の三分の一にあたる二百万人が犠牲になった。二〇世紀を通して独裁体制の政治犠牲者数は戦争犠牲者の四倍に及ぶという。

また、一九八七年までの北朝鮮では、一六〇万人以上が犠牲になっている。その後の実体は不明である。いずれにせよ驚くべき数字である。自由と民主主義を否定する政権ほど、自国民に容赦がないのである。

あの時代、独裁政権の非人道的な側面は凛然とは知られていた。それでも、たとえバカンボジアを救ったベトナムの人道的手助けは、世界は侵略戦争としてベトナムに非難を浴びせるだけであった。インドネシアが東ティモールで行った虐殺に、アメリカも英仏も、軍事援助まで行い、手を貸している。そうした政敵であることを承知の上で、わが国はインドネシアに経済援助を続け、スハルト政権を支えてきた。

主権平等と内政不干涉の時代にあつて、そして国益と国際平和の優先の時代にあつては、こうした国の国民たちの苦境は、救われがなかった。

みんなで考えよう 平和と人権

「よき統治」を問うようになった。こうした問題は、到底解決できようがない。国際政治の仕組みの構造的問題が改めて問われるようになった。「人間の安全保障」という言葉が冷戦終結後に流行するようになるが、そこにこうした背景がある。

国際連合は地球レベルで、またヨーロッパやアメリカでは地域レベルで、「よき統治」を問うようになった。国家とは、人権を尊重し、法の支配を確立し、そして民主制度を備える国家でなければならぬ。国際基準が形成されつつある。

この国の内部からは、体制保障、平和共存、あるいは経済支援への反対を呼びかける市民の声は聞かれぬ。国際平和と人間の安全の双方をかなえる手立てはないのである。六者協議の行方が危惧される。

マイノリティの権利の尊重も、自由で民主的国家的基準となっている。やつと、国家中心の平和の呪縛から、人類は解放されつつあるように思われる。とはいえ、人間の安全と国際平和を両立させようとする冷戦後世界の大きなうねりは、なぜか東アジアにまでは及んでいない。北朝鮮の核開発問題で、われわれの平和観がまさに試されようとしている。つまり北朝鮮の側が求める(「国家」体制保障)に同意することは何を意味するのであろうか。やがて明るみになるであろうが、かの国は歴史上まれに見る独裁国家である。その国に、大量破壊兵器の開発中止との引き換えに、体制保障を与えようとしている。金正日体制が氣息奄奄としているからこそ、「体制保障」を世界に求める。他方、この国の内部からは、体制保障、平和共存、あるいは経済支援への反対を呼びかける市民の声は聞かれぬ。国際平和と人間の安全の双方をかなえる手立てはないのである。六者協議の行方が危惧される。

平和の鐘を鳴らそう！

鐘の音とともに、我々平和への祈りと願いを。市内に平和の鐘を響き渡らせましょう。
日時 8月15日(月)正午～午後1時
会場 市民センター本館玄関

問い合わせ 芦屋ユネスコ協会事務局(生涯学習課内) 緯38-2091

国益優先の現実的国際政治が優勢であったことが、こうした政権を支えることになった。



問い合わせ みどりの課(あしや花と緑の会事務局) 緯38-2103(〒659-0034陽光町1-1 総合公園内)

第50回 市民寄席

ざごば・南光・小米朝三人会



桂 ざごば

日時 11月11日(金)午後6時30分開演(午後5時45分開演) 会場 ルナ・ホール 演目 「牛ほめ」桂まん我 / 「宗論」桂朝朝 / 「血屋敷」桂南光 / 「おごろもち盗人」桂ざごば / 「百年目」桂小米朝 料金 前売2,500円 当日3,000円(全席指定席) 8月1日よりチケット発売開始。前売り券売り切れの場合、当日券は発売いたしません。お子さんの同伴、入場はご遠慮ください。 チケット発売所 モンテメール大薈、市民センター内文化振興財団、市役所売店、チケットぴあ、ローソンチケット

問い合わせ 文化振興財団 緯31-4962

第23回 ひょうご花と緑のコンクール

花と緑につつまれた美しい県土づくりを進めたいため、家庭や職場・学校・自治会等で、四季折々に育てられている「花や緑のコンクール」を兵庫県・兵庫県教育委員会・兵庫県園芸・公園協会主催で実施します。

所定の応募用紙に、あなたが育てた花や緑のキャビネサイズのカラー写真を8枚添え、9月26日(月)までに下記へ提出してください。各部門ごとに審査を行い、優良事例や環境に配慮した緑化事例が表彰されます。

第6回 あしや花と緑のコンクール

自宅の庭やベランダ、地域の花壇や事務所等で育てている草花や花木等の写真を撮って応募してみませんか？ ふるってご応募ください。

内容 1年以上に撮影した写真・キャビネ版(127mm×178mm)3枚。組写真可。周辺の景観と花や緑の組み合わせを考えて撮影してください。

賞と賞金 市長賞3万円、1位2万円、2位1万円、3位5千円、入賞(5点)3千円

応募方法 写真の裏面に応募者の住所・氏名(会員は会員番号)・撮影日を記入し、9月1日から30日までにあしや花と緑の会事務局(みどりの課内)へ、郵送または直接持参。応募写真は返却しません。入賞写真は、会報等に掲載します。

表彰式・展示日時 10月中旬の予定です。